

平成26年7月分

平成26年7月期において

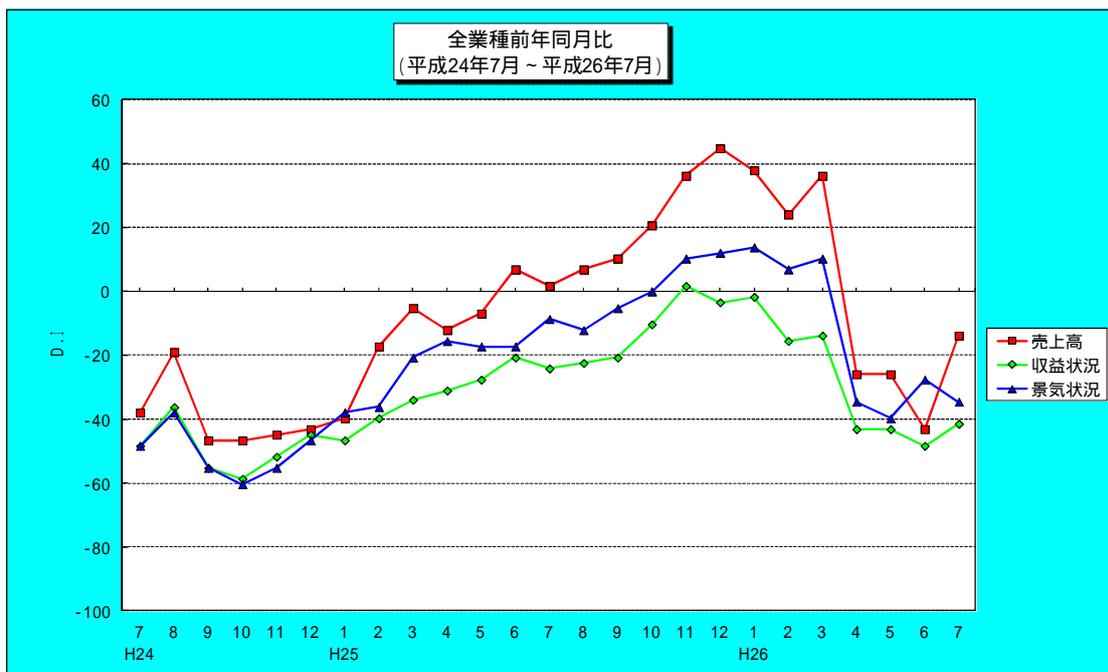
DI値で見ると、昨年同月比をもとに前月との増減を比べた場合、5項目が上昇、4項目が悪化であった。悪化項目は少なくなっており、売上高に関しては2桁の伸びとなっているものの、収益状況はわずかな伸びに留まり、景況は悪化していることから、全体としては引き続き停滞していると言える。今後、売上高の伸びが継続し、それが収益状況と景況へと波及することが期待される。

製造業においては、4項目が上昇、2項目が横這い、3項目が悪化であった。売上高と収益状況が改善しているものの、景況は悪化しており、回復に転じたとは言えないため、今後回復基調に乗ることを期待したい。売上を伸ばしていたのは、介護施設や道の駅等の仕事が増えた木材・木製品製造業、排ガス規制絡みで適合機種への導入が進んでいる建設機械関連と東南アジアや北米への輸出が好調な工作機械関連の一般機器製造業であった。一方、回復が遅れている個人消費の影響から、伝統産業（漆器、陶磁器、織物）は引き続き深刻な不調であった。

非製造業は、3項目が上昇、3項目が横這い、2項目が悪化であり、特に売上高は40.8ポイントの大きな改善が見られた。ただ、こちらも収益は横這い、景況は悪化していることから、引き続き今後の動きに注視したい。売上高の改善に貢献していたのは、建築関連を主として食料品・事務機・医療機器向けが好調な各種商品卸売業、販売価格が上昇した燃油小売業、バーゲンで賑わった商店街、公共工事の発注の本格化した建設業であった。なお、非製造業において不調であったのは、消費増税の影響の残る電器・衣料品小売業、競合の激しい能登地区の商店街、観光客の減少から旅館・ホテル業であった。

4～6月期と比較した7～9月期の見通しについては、全業種では「変わらない」が51.1%と最も多く、「良くなる」と「変わらない」はほぼ同率であった。「変わらない」と「悪くなる」を合わせると、その割合74.5%と大きいことから、県内の中小企業者においては、7～9月期の景況見通しについて、4～6月と同様に厳しい見方をしている事業者が多いことが分かった。製造業においても、全業種と同様「変わらない」が最も多かったものの、全業種と比較して、「変わらない」「悪くなる」との回答が多く、「良くなる」との回答が少数に留まったことが特徴的であった。「良くなる」の理由を見ても、実体経済が回復していると思われる内容は乏しく、「悪くなる」の理由が製造業の現状の問題を現わしていると考えられる。ただ、「変わらない」の理由をみると、今後の景況の悪化を予想させるものは少ないため、今後の回復に期待したい。非製造業においては、全業種と同様「変わらない」が最も多かったものの、全業種と比較して、「良くなる」の割合が大きいことが特徴的であった。「良くなる」の理由としては、公共工事の発注の増加、夏休みの行楽による消費の拡大、個人消費の回復等が挙げられていた。消費増税の影響を強く受けた非製造業であったが、輸出や設備投資の回復が遅れている製造業に比べて、補正予算の執行による公共投資と個人消費の拡大から景況回復が早いと考えられる。なお、個人消費の拡大には、一時金の支給や夏休みなども影響していると考えられる。

全業種の前年同月比推移（H24.7～H26.7）



本調査は、当会に設置している情報連絡員〔中小企業の組合(協同組合、商工組合等)の役職員58名に委嘱〕による調査結果です。調査は、情報連絡員が所属する組合の組合員企業の全体的な景況(前年同月比)です。

| | 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) |
|----------------------|----------------------|---|---|
| 製 造 業 | 食料品 | 調味材料製造業 | 売上高は前月と変わらなかった。前年比では20%の減少であり、動きが弱い。原料価格は下がっている。個人消費について、観光地は人で賑わっているが、天候不順もあって消費は向上かない。 |
| | | パン・菓子製造業 | 売上高・収益状況を含め、全体的に横這いである。個人消費について、7月17日金沢駅百番街あんととのオープンにより、観光客だけでなく、地元客も増加し、出展している店は売上が回復しつつある。8月は帰省客やギフトに期待したい。 |
| | 繊維工業 | 織物業 (加賀方面) | 全体として受注は増えている。材料費・燃料費の値上りに対して、多少の転嫁もできるようになりつつある。しかし、商品によって、原材料費と消費税アップの影響により、受注が激減し、採算性は更に悪くなっているものもかなり見られる。商品種や取引先により組合員企業間でも大きな差が出てきている。 対前年同月比売上は増加している。収益状況は変わらず厳しい。 |
| | | その他の織物業 (染色加工) | 売上高はほぼ昨年と同水準にある。しかし、収益状況に関しては悪化している。その要因として、高額の商品が売れにくい現状があり、利益率の低い低価格の商品を中心としての動きしかないことが問題となっている。個人消費に関しては、まだまだ厳しく、特に高額の商品に関しては動きがないようである。時期的には夏と言うこともあり、呉服関係にとっては、特に動きのない時期となっている。業界の動向として、景気回復して、金銭的余裕が出ない我々の商品(着物)への興味は湧かない様である。現在の商品の動きは、前年とほぼ同じとなっているが、その内容としては低価格のものが多くを占め、利益率は良くない商品が多い。 |
| | | ねん糸等製造業 | 円安に伴う製造原価(電力料、資材、輸入コスト)高騰、輸入品(糸、製品)及び内需不振により、売上高、収益状況とも悪化傾向にある。撚糸の業種により、依然、業況の格差があるが、全体的には不変である。工場の淘汰(自然な減少)に伴い、需給バランスが推れてきているため、実燃関係(合織・化織共)稼働は順調に推移している。加工賃アップについては、各企業の交渉次第による。メーカー、商社の利益確保が優先されるため、発注増加が工賃増に結び付かない。仮燃については実燃と違い、輸入糸の流入もなく、供給過多の状態が今後も続く想定される。他社との差別化が必要と思われる。撚糸業の減少及び関係機材店等の減少が問題視されている。個人消費について、通信関係で一部増があるものの、衣料、自動車関連で減となっており、全体的に見て減少傾向にある。 |
| | | その他の織物業 (織マークの生産・加工) | 7月度は、昨年7月に比べ、ほぼ同額の売上額となった。一昨年12月以降の売上減少には歯止めがかからず、業界の状況は極めて深刻度を増している。昨年、今年と大手企業的好決算発表が報告され、日本の景気回復が叫ばれている。しかし、政権与党の地方組織が心配するように、地方並びに中小零細企業には景気好循環は伝わってこない。景気回復の道筋が見えるのはいつになるか分からない。 |
| | | 木材・木製品 | 製材業、木製品製造業 (加賀方面) |
| | 製材業、木製品製造業 (能登方面) | | 前年同月比、取扱量は+234m ³ 、売上は+2,470千円、単価-595円であった。売上高は昨年より多かったが、増税後の景気の冷え込みによる需要減で、市況は良質材が下落して大変売りづらくなった。今後の動向が非常に気になることである。 |
| | 製材業、木製品製造業 (金沢方面) | | 7月の加工実績は前年比15%ダウンと予想通りの結果となった。今後の予想を立てると、8月は微減程度で終わりそうであるが、9月に入ると目立った減少結果が出るような心配がしている。その根拠は見積件数が減っているからである。 |
| | 印刷 | 印刷業 | 大企業のような大幅な業績アップは殆ど見られないが、国内需要の多いアパレル・アミューズ関係は賑やかな情報が資材関係からも聞こえて頼もしい次第である。また、「装飾関係印刷」は短期納入の仕事が多く、デザインや色彩使用の技術が流行、好き嫌いで流れが変わり、波に乗れるのが楽しみである。個人消費について、大幅な円安でも国内に仕事を戻さない・戻せないの複雑な現況である。北陸新幹線開業を控え、「石川発来へ伸びゆく観光と産業」のキャッチフレーズで夏~秋にかけて、沢山のイベントが県内各地にて開催されるのは地域住民にとっても活力が出て、消費税の影響も少しは薄らぐことではないかと思う。 |
| | 窯業・土石製品 | 砕石製造業 | 7月の組合取扱い出荷量は、対前年同月比、生コン向け出荷は17.1%減、合材用アスファルト向け出荷も31.7%減となり、全出荷量が18.7%の減少となった。その中で白山麓地区の生コン出荷の64.5%の増加となっている。これはこの地区の災害復旧などの公共工事が動き始めたことによるものである。 |
| | | 陶磁器・同関連 製品製造業 | 前年同時期と比べての売上状況は、大幅な落ち込みとなっている。消費増税による個人消費の落ち込みがあるものと考え、特に九谷焼のような贅沢品(非生活必需品)までには、手を出さない傾向がある。また、収益状況に関しても悪化していると考え、部材及び運賃等の関連費用の値上げを受け入れ、販売価格は据え置きとなっている。個人消費について、台風などの悪天候による被害もなく、観光客の足取りは金沢中心部には多く訪れていると思われる。しかし、上記に述べたように、個人消費の落ち込みが顕著に現れている。大都市圏では、アベノミクス効果が浸透しつつあると聞いている。しかし、地方にまでは波及効果は及んでいないと思われる。特に伝統工芸品九谷焼においては、全ての面で悪化していると考え、九谷焼は製品の性格上、夏場には弱い製品と言える。前年同時期の売上と比較しても、大幅な落ち込みになっている。今後の支払面で負担が大きくなる。また、夏場の仕込み時期に仕込みができなければ、今後の需要期での対応に苦慮すると思われる。その上、製品部材の値上げがジワジワと実施されている。原油価格の高騰と円安による材料高が要因である。販売価格は据え置きとなっており、収益を圧迫している。そんな中、金沢駅への新幹線乗り入れを待つ準備が着々と進められている。この開業に期待を込めて、受入準備を整えることにより、大きなチャンスをモノにしていきたいと考える。 |
| | | 生コンクリート製造業 | 県内の生コンクリートの出荷状況は、26年7月末現在、前年同月比80.6%の出荷となった。地区状況は、鶴来・白峰、羽咋・鹿島地区がプラス出荷で、南加賀、金沢、七尾、能登地区がマイナス出荷となった。官公需、民需の前年同月比は、官公需80.6%、民需85.0%の状況である。公共工事の中で増えているのは学校整備等であり、民間事業の中で増えているのは工場、住宅整備等であった。 |
| | | 粘土かわら製造業 | 7月の出荷量が予想以上に悪く、依然として消費増税の厳しい影響が続いている。ここ当面、収益的にも燃料価格・原料価格・電力料金が大幅なコストUP要因となり、価格転嫁も容易に出来ずに厳しいものがある。 |
| | 鉄鋼・金属 | 一般機械器具製造業 | 景況の上向き傾向に対し、人手不足、資材不足から生産・営業活動抑制への影響の音が聞かれる。また、これまで海外向けが主であった工作機械の需要が、アベノミクスの経済再生策の影響か、国内での受注が見込まれ始めている。 |
| | | 非鉄金属・同合金圧延業 | 先月同様、大きな変化は認められない。文化保存会関係からの注文が入り、売上に貢献した。個人消費について、工芸品については、先月同様、観光シーズンや好天候のおかげで良好な状況である。 |
| 鉄素形材製造業 (銑鉄鋳物の製造) | | 生産量は7月度は対前月101.5%、対前年同月比99.6%と減少傾向である。各分野とも横這いから減少傾向である。特に織機関係は減少にあるようである。製造コストは、原材料、副資材、電力、運送費などのアップにより、0~5%上昇している。一部組合員に、求人を行っても応募者がいないという声がある。 | |
| 鉄素形材製造業 | | 売上は6月に引き続き、前年同月より減少しているものの、その幅は小さくなっている。建設機械は6月より微増し、産業機械は新規大型受注があった。売上高は増えつつあるものの、短期納期の仕事が多い。収益状況は大きな変動はない。 | |
| 一般機器 | 機械、機械器具の製造 又は加工修理 | 建設機械について、小型ショベルローダー関係の発注が前倒しできており、生産能力以上になっている。排ガス規制がらみで、適合車種の導入が進んでいることが好調の原因と思われる。織機関係について、県内・県外メーカーとも受注が減少している。特に県内メーカーの落ち込みが大きい。メーカーの海外生産シフトにより、下請企業の選別が加速化する気配がある。 | |

| | 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) | |
|-------------|------------------|---|---|--|
| 製 造 業 | 一般機器 | 機械金属、機械器具の製造 | 程度の差は若干あるが、概ね順調に推移している。 | |
| | | 繊維機械製造業 | 組合員企業の繊維機械向け部品加工は、前年平均比マイナス43.6%、前月比マイナス2.5%、H19年平均比マイナス42.4%となった。引き続き中心市場の中国からの受注がシャドーバンキング問題の影響から、客先銀行融資が計画通り実行されず、極めて低調なレベルまで減少している。中国繊維産業の投資は、建屋を含む大型金額になることから、銀行融資が計画進捗の要となる。加えて、綿花価格下落の影響も投資減の要因にもなっている。当該事業の先行きであるが、今暫くは繊維機械需要が減退し続けるが、中国繊維製品の欧米輸出が増加基調にあり、徐々にではあるが、年後半に向けて設備投資の環境が改善していくものと見込んでいるようだ。したがって、組合員企業の操業はあと半年程度現状レベルで推移すると予測している。 一方、工作機械関連事業向けの部品加工は、前年比マイナス31.8%、前月比プラス12.2%、H19年平均比マイナス4.7%となった。工作機械需要の背景となる工作機械受注は、総額・内需・外需とも対前年同月比と前月比で増加となり、外需で欧州財政問題やウクライナ問題など懸念がある中でも、比較的安定的な状況が続いており、工作機器も内外ともに引合・受注が活発に推移している。今年秋に2大イベントとなる国際工作機械見本市が米国・シカゴと日本・ビックサイトで開催されることから、新製品の展示で主力得意先の自動車産業に加え、新型スマートフォンなどの電子機器産業や安定した設備投資が見込まれる航空機業界など、ターゲットを絞った需要先への販促活動を展開し、受注を更に活性化させることを目論んでいる。 | |
| | | 機械器具及び其の他金属製品の製造 | 7月の工作機械の受注金額は、全体で前月比100.1%、前年同月比では137.7%となっている。内需では前月比は100.3%、前年同月比は130.6%であった。外需は前月比100.1%、前年同月比は141.5%であった。内需・外需共に今期に入ってからはほぼ横ばいの推移を示している。地域別に見ると、アジアでも中国、台湾、韓国は前月比を下回っており、むしろタイ、マレーシア、インドネシア等の東南アジア圏が前月比を上回っている。但し、各国とも国内情勢が不安定状態であり、今後の推移を慎重に観察して必要がある。EU諸国においても、ドイツが前月比を上回っているが、イギリスやフランスなどは下回っている。ここきて、ロシアと世界各国の関係も緊張のある状態となっていることから、今後の動きが気になる。北米については、アメリカはほぼ横ばいであるが、カナダ、メキシコは前月比を大きく上回っている。アメリカについては、イラクへの空爆開始等により、ドルが売られ、その影響で円高傾向へ振れている。この円高傾向によっては、外需への受注がどれだけ影響されるかも慎重にならざるを得ない。円安傾向とリーマン以降の反発で、今年度半期は上昇の兆しがあるが、前述した通り、世界情勢による影響が懸念されるため、今年度後半また、来年度における需要は楽観視してはいけないものと思われる。 | |
| | | 機械器具及び其の他金属製品の製造 | 全体に売上高は横這いである。その中で、電子・デバイス関係は売上を伸ばしている。収益状況は、資金繰りや採算性の改善などで、業績状況は良くなっている。設備操業度は全体的に良くなっている。原油や原材料価格は、今後高騰が懸念される。 業界の動向としては、景気は緩やかではあるが回復基調が続いており、設備投資は製造業を中心に増加している。資金繰りや採算性の改善などで、収益状況は良くなっている。輸送機器は、部品の海外現調比率の高まりと国内で車の先行き生産縮小が見られるが、在庫調整も進み、生産量が戻りつつある。電気機械は、海外向け溶接ロボットは横這いで推移し、家電関連は前月前年同期水準並みに戻る。電子・デバイス関連は、受注増で生産が拡大している。チェーン部門は、四輪、二輪、産業機械(小型、大型、コンバヤ)用とも順調に継続している。繊維機械は、新機種での生産数量の確保もでき、海外需要拡大への対応整備継続で、人員の増加が見られる。 | |
| | | 機械金属、機械器具の製造 | 工作機械関連と建設機械関連(中・小型)は好調であるが、繊維機械の減少が響き、売上・収益共低調であった。 | |
| | 漆器製造業(能登方面) | 売上・収益共の下げ止まりがない状況である。 工芸品に関する個人消費は、増税後は手控えが続いているようである。7月も昨年対比で観光バスの入込が20%減少となった。 | | |
| | その他の製造業 | 漆器製造業(加賀方面) | 近代漆器部門は、弁当箱の大型受注等により活気が感じられるが、伝統漆器部門は下げ止まり傾向が見られるものの、引き続き振るわない。また、これまで山中漆器の主要販売ルートを担当してきた消費地の漆器問屋が、漆器以外の雑貨品に比重を移してきており、加えて準大手の廃業などもあり、厳しい状況にある。 | |
| | | プラスチック製品製造業 | 消費税アップで、5・6・7月は売上も落ち、ボーナスの支払いも重なり、収益は大変悪化している。個人消費について、百貨店等の客足も少ないと聞いており、やはり消費税アップが影響していると思われる。 | |
| | 非 製 造 業 | 卸売業 | 事務機・事務用品卸売業 | 6月に引き続き、消費税増税前の駆け込み需要の反動なのか、厳しい状況が改善されない。売上、収益共昨年より落ち込んでいる。 |
| | | | 水産物卸売業 | 7月分買受高は、対前年同月比2.7%増と3ヶ月連続のプラスとなり、日常生活の必需品である鮮魚等の水産物に対する消費税増税の影響は、完全に回復したと思われる。今後の推移を見守る一方、地道に魚食普及活動を続けていきたい。 |
| 一般機械器具卸売業 | | | 消費税増税前の駆け込み需要の反動もようやく落ち着き、住宅市場、非住宅市場ともに前年並みに推移している。個人消費について、7月後半まで比較的涼しい日が続き、エアコンの荷動きが盛り上がらない。「夏は夏らしく!」今後の天候に期待したい。 | |
| 各種商品卸売業 | | | 繊維品以外について、建築関連の電気工事、通信、内装工事業者等は大幅な増加傾向である。また、食品、事務機、医療機器等も前年を上回る傾向にある。 | |
| 小売業 | | 燃料小売業 | 販売量については前年並みであった。売上高は単価の上昇により増加したものの、収益には結びついていない。梅雨時であったが、比較的雨が少なく、洗濯等の需要は多かった。個人消費について、価格的にほとんど変動がなかったものの、160円を超える価格では、消費者の節約志向による買い控えも窺える。 業界の動向としては、中東情勢がやや落ち着いてきたことから、原油価格の上昇は一段落し、仕入価格も若干値下がりとなった。ただし、4~6月の仕入価格の上昇を販売価格に転嫁しきれなかったこともあり、収益面では厳しい状況にある。消費税増税後の売上減少から、7月は対前年並みの売上に回復したものの、160円/リットルが恒常的なものとなれば、最大の需要期である夏休み時期の需要減少が懸念されることである。 | |
| | | 機械器具小売業 | 平成26年7月度金額伸び前年比85%であった。先月に引き続き、伸びダウンの要因は消費税増税の反動による。カラーテレビは前年比150%と昨年を大幅に上回るものの、夏場商戦主力のルームエアコンは70%、冷蔵庫は80%と大幅にダウンし、また、洗濯機も70%とこれも大幅にダウンし、消費税増税反動による需要減の影響が大きい。個人消費について、夏季の気温として暑い日もあるが、消費税増税反動による需要減の影響が長引く。 | |
| | | 男子服小売業 婦人・子供服小売業 | 当地域はまとまった雨が降らず、下旬に梅雨明けし、ようやく夏物が本格的に動いたが遅い。暑さ、増税等で客数、客単価が減少し、ポディーブローのように効いた(売上は前年比92.5%)。全体として季節商品の動きが非常に悪かった。今年は例年に比べ、夏物バーゲンが早かった。メーカー各社は増税の影響を考え、生産調整を行っている。結果的には十分な在庫確保がなされていない。いかに「割引」「ポイント」をアピールし、商品の機能性、価値観を出すか、今後の課題である | |
| | | 鮮魚小売業 | 売上高は増税後、ようやく例年並みに戻ってきた。収益は、各種資材が上がってきており、収益自体は下がる傾向にある。今後一層の原油等の製品値上げがメーカーから続いている。個人消費について、増税による一時的な買い控えも収まっているが、台風等による悪天候で、全国的に漁が出来ずに品物が市場に出てこない。荒天により相場が高い。土用の丑の日があり、一時的には焼き物が売れた。 | |
| | | 他に分類されないその他小売業 | 今年の売上前年比増は、前年が一昨年より売上を下けているためである。個人消費について、海の日3連休は、19日~21日と8月に近く、夏休みと重なり大変良かった。 | |

| | 集計上の分類業種 | 具体的な業種 (産業分類細分類相当) | 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) |
|------------------|----------|-----------------------|---|
| 非 製 造 業 | 小売業 | 百貨店・総合スーパー | 昨対計93.2%、ファッション96.2%、服飾・貴金属77.1%、生活雑貨85.2%、食品101.7%、飲食82.9%、サービス115.6%、客数92.1%であった。夏休みに向け、大きな販促を仕掛けたが、昨対を超える業種はなかった。服飾・貴金属に関しては、相変わらず増税後の影響が大きいように感じられる。全体的に横這いであるもの、食品に良い兆しが見えるので、8月に期待するが、気温等が読めず、どのように影響するか不透明である。 |
| | | 米穀類小売業 | 暑さによる食欲不振のため、毎年ではあるが売上減少である。個人消費について、旧盆に農家からコメをもらうため、8月・9月は新米の取れるまで、売上は期待できない。業界の動向として、アベノミクスは庶民には無関係の様相である。来年の新幹線開業と世間は浮足立っているが、一部の企業であって、零細企業の我々には無関係に感じる。 |
| | 商店街 | 近江町商店街 | 売上は伸び悩んでいる。暑い日が続いたことと、駅に「あと」ができたことも、金沢人の「新しもの好き」のせい、人の流れが変わった一因かと思う。個人消費について、観光客がやや少ない。土用の丑の日はこれ以上ないと思えるほどの人出があった。業界の動向について、先月に変わらず日曜日の人出はあるが、小売店、販売店共に消費が伸び悩んでいる。また、ウナギの高騰・品不足があるにもかかわらず、土用の丑の日には例年以上の行列がいたり、普段の我慢を集約したのかといった消費者動向が見える。 |
| | | 輪島市商店街 | 売上は昨年対比92.5%であった。個人消費について、官公庁のボーナスが支給されたので、売上を期待していたが、当地ではその効果はほとんどなかった。郊外のドラッグストアの3倍・5倍に圧倒されている。業界の動向としては、郊外の大型店やドラッグストアのポイント3倍・5倍・8倍・10倍売り出しの影響が大変大きくなっている。A店がポイント5倍の日にはそこに集中し、B店が5倍セールをするとそこへお客さんが見事に流れる、そんな状況である。 |
| | | 片町商店街 | セールの出だしがここ暫く店舗によりバラつきが出てきている。足並みが揃わないということもあり、ここ数年の状況だが、セールの勢いが長続きしないので、売上に関しては決して楽なものではない。個人消費は回復基調にあると思う。それをどうやって、商店街で消費してもらうかという事だと認識している。また、海外からの観光客は明らかに増えていると思う。いかに商店街で消費してもらうか工夫が必要である。セールに入ったので販売価格は低下した。 |
| | | 罌町商店街 | 7月は夏セールがあったため、通常よりは人出も増えた。4~6月消費を我慢していた方が、セールで動いた気がする。 |
| | サービス業 | 旅館、ホテル (金沢方面) | 食材等の値上げや新幹線開業を見据え、料金を多少上げている傾向だが、収益状況は厳しい。個人消費について、台風によるキャンセルが旅館に数件あった。連休・週末も昨年と比べ客が少ない。消費増税の影響が客足を鈍くしているのではとの意見がある。 |
| | | 旅館、ホテル (加賀方面) | 新幹線開業を控え、何かと情報発信の機会は増えており、長期的な問合せの動きも出てきているが、直近の消費動向は、まだまだ厳しくマイナス要因は多い。個人消費について、ボーナス増額支給等、プラス要因があるものの、大きな影響は少なく、現状維持と言う感じである。 |
| | | 旅館、ホテル (加賀方面) | 温泉地全体の宿泊客数は、対前年1,972名、93.4%と減少した。また、新規開業旅館を除く既存旅館の前年対比でも1,637名、91.4%と大きく減少した。低価格路線の旅館が軒並み前年より減少したことが、大きなマイナス要因である。各旅館の売上はまだ判明していないが、温泉地全体の集客数は前年より約7%減少であったことから、売上も減少していると思われる。春先に比べて、海外観光客の宿泊も低調になってきた。個人消費について、低価格路線の旅館が苦戦であったことから、お客様の宿泊動向は依然として鈍い。但し、夏の1ヶ月間7/25~8/24間で開催の夏祭り利用客は、前年を上回り好調である。宿泊客だけでなく、近郊からの来場者も見られる。 |
| | | 旅館、ホテル (能登方面) | 宿泊人員は対前年比92.7%、日帰り客を含めると対前年比91.8%と厳しい状況である。売上では対前年比97.1%と消費税の値上げがあったが、対前年比を割込み、今月も厳しい状態が続いている。個人消費について、首都圏・関西・中京方面の宿泊客が減少している。北陸新幹線による出控え、ガソリンの上昇・U.S.Jの新しいイベントのオープン等が要因と思われる。 |
| | | 自動車整備業 | 平成26年7月期の継続検査実績車両数は、登録車で対前年比マイナス7.2%、軽自動車でも対前年比マイナス5.8%と登録・軽自動車ともマイナスに転じた。先月は3ヶ月ぶりにプラスとなったが、またまたマイナスとなった。今月は新車販売(登録・軽自動車)も前年を割るなど、厳しい状況の中、継続検査についても2014年問題の関係が続いている証拠である。年度前期はマイナスで推移すると思われるが、後期9月以降の動向に注視していきたい。特に後期は大震災の影響が薄れて、車の生産が若干であるが復活して車の台数が伸びたことから、その車が車検に入る時期であることから期待したい。一方、7月期の新車販売台数は、登録車で対前年比マイナス2.2%、軽自動車でも対前年比マイナス16.8%と、登録・軽自動車合計で対前年比マイナス7.2%で推移した。特に軽自動車の落込みが16.8%と二桁台となるなど、4月以来である。軽自動車も各メーカーの依然の受注残が順調に進んだことの影響もあって、マイナスとなっている。本来ならば、ボーナス商戦で各ディーラーとも販売に力を注いだ、期待通りにはならなかった。今後後半にかけて、どのような施策で販売攻勢をかけてくるかは分からないが、取りあえず今のところ一服状態となっている。 |
| | 建設業 | 板金・金物工事業 | 原材料は少しづつ値上がりしているが、販売価格を上げることは出来ず、収益状況は悪化している。個人消費について、住宅は大手住宅会社が一手に引き受けているため、個人事業所はリフォーム仕事しか回ってこない。リフォーム仕事も小さなものが多く、数も少ない。 |
| | | 管工事業 | 7月期の売上高・収益状況は、前年同期とほぼ同じ状態にまで来た。一時の落込みから見れば、少し良くなってきている。7月期の給水装置工事の受付分は前年同期とほぼ変わらない状態になってきている。また、ガス管工事についても、前年同期と変わらない状態に戻ってきている。ただ、ガソリン価格高が懸念される。 |
| | | 一般土木建築工事業 | 公共工事は6月以降順調に発注されていることから、売上高は伸びている。しかしながら、労働力不足などから労務単価は上昇している。また、材料単価も上がっており、収益状況は依然として改善の兆しは見えない。 |
| | 運輸業 | 一般貨物自動車運送業 | 北陸新幹線の工事もほぼ終え、新幹線絡みの仕事は減少となり、工事関係はきつくなってくる。燃料費も前年と比較すると10円程アップしている。仕事量の低迷から、車両を減少する企業もある。 |
| | | 一般貨物自動車運送業 | 7月度の売上は前月比約14%、前年同月比約7%プラスであった。特別な要因はなく、全体的に荷動きが上がったようである。また、増加分の消費には組合員ネットワークの活用が大きく寄与した様である。収益状況は、運賃値上げ交渉で多少改善傾向にあるが、まだバラつきがある。 |